

巻頭言

環境問題を地域の課題に

高知県衛生環境研究所長 川崎 敏久



令和3年度、4年度の全国環境研協議会中国・四国支部長を務めさせていただいています高知県衛生環境研究所長の川崎と申します。日ごろから、皆様方には多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

高知県衛生環境研究所は、令和元年度に衛生研究所と環境研究センター、それに福祉保健所の検査部門を統合し、新庁舎で発足しました。

統合に当たって、環境、生活、健康について連携していけるようにしなければならぬと考えてきました。今年で4年目になりますが、環境科学と生活科学が農業等の検査で分析機器のメソッドを共有していく試みをはじめなど所内連携を進めてきましたが、まだまだ一つの衛生環境研究所として十分に機能できていない状況です。

また、発足に合わせて「高知県気候変動適応センター」を当研究所に設置しました。高知県内での気候変動の影響及び気候変動適応に関する情報基盤を強化するとともに県内の事業者や住民等に情報提供を通して地域の取組を推進していくように活動していくことが業務です。

これまでのモニタリング中心の業務とは異なり、国立環境研究所の気候変動適応センターの皆様との協議やアドバイスをいただきながら少しずつですが取組を進めてきたところです。

昨年度には、高知県内における気候変動の影響やさまざまな分野での適応策について調査し、小学校高学年向けのパンフレットを作成しました。それを県内全小学校に1部ずつ配り、同時にアンケートを行ないました。回答の中には、「このような対策をしていることを初めて知っておどろいた。」というお声がありました。

パンフレットを追加で欲しいとの要望がありましたので、今年度はパンフレットを増刷するとともにパネルを作成し、展示等で活用していくことにしています。

今後は、企画展示など、ダイレクトに住民のリアクションが返ってくる取り組みを行い、地域に気候変動への適応の必要性について広げていきたいと思っています。

当研究所では、これまで地域的な課題や局所的な課題の解決に取り組んできましたが、気候変動というような

地球規模の課題に取り組むことはありませんでした。これを機会に地球温暖化対策やマイクロプラスチック調査などグローバルな環境問題にも、地域からどのようにアプローチできるのか、又地域住民とどのように協働していくのか、知恵を出しながらチャレンジしていきたいと考えています。

一つの研究所でできることはどうしても限られてしまいますので、会員の皆様や国立環境研究所と連携を深めながらグローバルな課題に取り組んでいくことで、得られた成果を地域に還元していければと思っています。

最後になりますが、中国・四国支部の会員の皆様には、大変なご協力をいただき、コロナ禍の中で支部活動を続けることができましたことに、改めて感謝申し上げます。

また、全国の会員の皆様には、今後とも情報交換や情報発信に努めていきたいと思っておりますので、ご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/20230800151.html>

令和4年7月に「A-PLAT」に掲載されました。